

第26回伊勢原市子ども・子育て会議 議事録概要

- 1 日時 令和元年10月2日(水) 午前10時から正午まで
- 2 場所 伊勢原市民文化会館 練習室2
- 3 出席者 宮川会長、石井副会長、高橋委員、田中委員、佐伯委員、小山委員、萩原委員、青木委員、魚見委員、事務局(子ども育成課長 山田、稲葉、松本、柳田)
- 4 欠席者 大田(正)委員、大田(愛)委員、能條委員、菅野委員、茅田委員
- 5 傍聴人 なし

6 議事概要

-1 開会(午前10時)

-2 議題

- (1) 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画(令和2年度～令和6年度)個別事業について

- 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画(以下、「第2期計画」という。)における個別事業について説明。

(事務局)

- ・ 129個の個別事業が、4つの基本目標ごとに分かれて構成されていることを提示した。
- ・ 第1期計画と比較し、第2期計画では、新規事業16個、廃止事業4個、統合事業4個あることを提示し、それぞれの内容について説明した。

【質疑応答(新規事業)】

<新規事業全体>

(委員)

- ・ 新規事業というのは、これから始める事業と、現在も実施している事業で新たに子ども・子育て支援事業計画に掲載する事業が混在しているということか。

(事務局)

- ・ そのとおりである。

<幼児教育アドバイザーの配置>

(委員)

- ・ 幼稚園や保育所など、どこまでの施設を対象の範囲とする予定か?

(事務局)

- ・ 本事業は国の指針に示されたものであり、事業の内容自体がはっきり見えないところもあるため、情報収集しながら検討していく。

(委員)

- ・ 検討段階であれば事業として計画に掲載する必要はないのではないか。

(事務局)

- ・ 実施の必要性についてこれから検討していくのだが、今後、事業を実施することとした際に、国から補助金が出る条件が、計画に計上していることという可能性がある。

市として必要がない事業と判断した場合には実施しない。

(委員)

- ・ 私立の幼稚園等は経営方針が決まっているが、公立で若い園長が就任するような場合には、相談に乗れるアドバイザーは必要だと考える。
- ・ 公立学校の指導室のような形になりかねない制度と考えられるが、私学の独立性を損なわないことが大切であるため、そこを思いながら先行きを見守ってほしい。
- ・ 株式会社や認可外などを中心に、新設される施設、特に若い施設長が施設の書類を作れないという実態がある。例えば、実施場所がどの場所にあっても、会社が一律で作成したものを適用してしまい、年間目標を同じにしているような実態がある。そういった所に対するアドバイスは必要だと考えられる。

<子どものスポーツ活動の推進>

(委員)

- ・ ジュニアリーダー研修会は、スポーツ活動の推進につながるようなことが実際にあるのか教えてほしい。
- ・ スポーツに参加する子どもは多く参加している一方で、運動したくない・スポーツイベントに参加したくない・する機会が無いような子どももいるため、そのような子どもをケアする事業も検討してほしい。

(事務局)

- ・ 担当課に確認する。

<子育て世代包括支援センター>

(委員)

- ・ 中央保育園の跡地で実施する予定か。

(事務局)

- ・ 現時点では、市役所の子育て支援課で実施する予定。

<5歳児すこやか健康相談>

(委員)

- ・ 未就園児が対象とあるが、どの施設に通所していない児童が対象か。例えばファミリーキッズに通っている場合は対象となるのか。

(事務局)

- ・ 保育所等としており、3歳児健康診査を未受診の児童等も対象としている。ファミリーキッズに通っていてもいなくても対象とする場合がある。

<外国につながる子ども及び保護者支援>

(委員)

- ・ 通訳の導入もありがたいが、日々の子どもの様子を伝えるのも難しいため、人だけではなく、システム（ポケットク等）の整備も検討してほしい。

<産後ケア事業>

(委員)

- ・ 産後は外に出るのも億劫になる時があるため、ぜひ訪問事業を前向きに検討してもらえるとありがたい。

【質疑応答（廃止事業、統合事業）】

<教育・保育の質の向上のための合同研修等の実施>

(委員)

- ・ これまで伊勢原市では、本事業がどのくらい実施されていたか。

(事務局)

- ・ 栄養士に対する食やアレルギーに対する研修を行っていたが、その他は検討したものの実施していない。計画としては廃止するが、施設から合同での研修希望の意見がある場合は、実施を検討したい。

<ワーク・ライフ・バランスの普及・啓発>

(委員)

- ・ 廃止事業一覧に掲載されていない事業だが、セミナーの開催はこれまでも参加者の募集に苦慮しているため、この事業の継続の必要性や方向性の変更を検討してはいかがか。

(事務局)

- ・ 男女共同参画との観点から、その所管課と合同実施する等、少しずつ変えているものの、根本的なことは変わってなく、効果があまり出ていないのも実態であるため、必要性や他のやり方を検討していきたい。

【質疑応答（事業全体）】

<放課後児童健全育成事業（児童コミュニティクラブ事業）>

(委員)

- ・ 民間クラブ補助の実施が、令和2年度では5事業所とあるが、これで足りるのかと考える。まだ令和6年度以降までピークを迎えると思う。
- ・ 民間クラブで夜8時まで実施していることも掲載してもらいたい。

<その他>

- ・ 13事業は神奈川県全体で他県に比べて遅れている。そういった部分も含め、どこに補助が必要なのかを明確にしていくことが大切である。

【議事の議決について】

承認された

(2) 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）
事業評価について

- 第2期計画における事業評価について説明。

(事務局)

- ・ 「概ね計画どおり進捗した」とする評価を追加し、A、B、Cいずれの場合も評価理由について説明することを提示した。

【質疑応答】

(委員)

- ・ 第1期計画では、「計画通り進捗できなかった」がほとんど無かった記憶がある。「計画どおり進捗した」と「概ね計画どおり進捗した」は同じと覚えるため、Aを「計画以上に進捗した」とし、Bを「概ね計画どおり進捗した」とすると明確な違いが出るのではないか。
- ・ 概ねという表現は行政が管理する言葉である。何%以上がAとした方が良いのではないか。
- ・ 方向性が分かれば良い。
- ・ 数字で管理するのも大事だが、数字だけで判断すると内容を見誤ることもあるため、内容が分かる資料などがあると判断しやすいのではないか。
- ・ 事業によっては、実施することを目標としているため、その事業の評価は難しい。

(事務局)

- ・ これまでの会議において、委員が入れ替わる中で、Aは優れているという意味ではないのかという意見を多くいただいていた。
- ・ 実態として、計画以上という事業はあまりない。
- ・ 一つ一つの事業で満足度を図ることが理想ではあるが、すべての事業の満足度を確認することは難しい。

(委員)

- ・ 評価が低い事業が注目されるため、どのような理由により評価したか書かれていると見やすい。
- ・ 数値で出せるものは数値で出された方が分かりやすい。人によって評価の捉え方が異なるため、AやBとするのではなく、その数値をそのまま評価とするのが見やすいかもしれない。
- ・ Sを追加する場合は、満足度などの数値以外も含めた方がよいと考える。

(事務局)

- ・ 概ね計画どおりとする評価を追加ということもあるが、A、B、Cいずれの評価の場合も評価理由を明記することで、評価内容を伝えたいと考えている。

(委員)

- ・ いずれの評価の場合も評価理由するならば、%や%で表せない文言もあるため、事務局の考えで良いと考える。

【議事の議決について】

承認された

-7 その他

- ・ 次回の会議は、10月30日（水）伊勢原市役所の全員協議会室で開催することを報告した。

-8 閉会（午前11時50分）